

2010年・記録会は12月21日(日)HLG吉見公園、PLGはグリーンパークです

2011年・記録会は 1月16日(日)HLG吉見公園、PLGはグリーンパークです

もう2010年も終わりで会報も12月号です。今年は天候不順が尾を引いて体調もおかしく、その分機体の調整も遅れ、ズルズルと不調のママ年を越します。来年には復調なるよう努力しますが、機体はともかく加齢による身体事情は如何ともしがたく、悩みは不快(深い)です。今ではHLG競技者の年齢は私の次は10才近く若く、いずれは「老兵は・・・ただ消え去るのみ」です。

さて、ここ数年、過激なほどのLPブームで機体変化が著しく、来年もこのまま続いてライトプレーン変容の年でしょう。ここ最近ようやくLPも木村秀政氏の影響を離れて、上昇抵抗の軽減等で優れた滑空性能が両立するハイアスペクトレシオ翼の時代となりました。この方が初心者にも作りやすく軽量が出来て、且つ性能も良いのですから、やらない手はありません。但し、狭いところで楽しくべきLPが過剰性能になって、田んぼに出ざるを得なくなるのは果たして進歩でしょうか。

記録会報告

2010 / 10月記録会HLG / PLG、 2010 / 11月記録会報告
 010年朱鷺カップ報告・丸山石井満 010年FF日本選手権報告
 2010年国際級ジュニア大会報告・高田

お知らせ

寒中杯案内

FFサロン

ライトプレーンの変容

雑談天国

美しい飛行機・2

銃刀法と軽犯罪法

編集後記

2010年10記録会の報告(HLG / CLG)

10月HLG記録会報告

平尾……

久しぶりの吉見公園での記録会です。やっとの事で酷暑も終わり現地は綺麗に草が刈ってあって、地面は凸凹だが回収はまずまず。当日風もなくHLG競技には良好な環境で参加者は15名とほどほどで、誰もが優勝を狙える人数である。熱心な選手は早々に練習をしていて、その中でも復調なった斉藤浩選手の高度がスゴイ。最近では60秒はさほど難しくないの、前半でマックスをまとめてフライオフに突入というケースが多くなった。前半でモタモタしてのパワーロス後半戦に響くのだ。

今回も斉藤、吉岡の両選手が3連続マックスで先行、その後をやや遅れて石井満、稲葉の両選手が追う展開で、ここで乗り切れなかった相沢、吉田選手は残れなかった。野球投げでは井村、池田選手が頑張っているが、基本性能が異なるのでどうしても苦戦になる。ポチポ出始めた吉敷選手は、まだ昔の凄さはない。結局は4人のフライオフとなって、なんと第1フライオフ90秒は全員通過。2回目で勝負がついたがHLGもとんでもない競技になってきたものだ。最後は機体の大きい石井満選手が勝利を決めたが、わずかな機体性能の差が出たのかどうか。斉藤選手が2位、このところメキメキと力を付けてきた瀬谷の吉岡選手が3位、地元稲葉選手が4位となった。

10月HLG記録 10月24日吉見公園、晴、21度、微風、60秒MAX 5 / 10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計
1	石井 満	54	42	60	60	60	55	60	60			300	68/90	62/66	456

2	斉藤 浩	60	60	60	47	60	60					300	48/90	43/58	448
3	吉岡潤一郎	60	60	60	60	60						300	45/90	30/48	438
4	稲葉 元	60	44	60	13	51	60	45	60	60		300	47/90	41/48	438
5	相沢泰男	07	45	31	51	36	60	60	52	53	60	285			285
6	吉田利徳	46	60	55	39	60	44	41	45	44	57	278			278
7	平尾寿康	42	55	60	51	60	35	40	49	25	38	275			275
8	斉藤勝夫	24	60	37	60	46	48	41	36	13	51	260			260
9	三俣 豊	27	56	53	35	20	31	56	47	31	41	253			253
10	井村真三	60	41	41	32	47	48	36	46	35	27	248			248
10	池田 昇	31	54	45	38	60	41	35	48	31	38	248			248
12	吉敷 潔	32	35	30	52	60	35	20	38	50	47	244			244

注：3、4位は第3フライオフを実施し順位を決定した。

10月PLG記録会報告

河田……

今回は全員がF0勝負になる様MAX.タイムを40秒に下げて行いました。参加者7人で5人が6、7射でF0に進出しました。小型の倉田号を高高度に打ち上げた佐藤さんがF0を制して久々に優勝しました。無尾翼機は諦めたのでしょうか。やや小型のトレーナーを高く打ち上げた工藤さんが2位、返りがピカイチの原さん今回もF0でサーマルを掴めず5位でした、次回に期待しましょう。

全体の記録は平凡のようですが、フライオフの記録はスゴイですね。77秒も飛んで回収できたのでしょうか。そちらの方が気になりました。広いところと違って狭いところで飛ばすのはテクニックがあるので精神が丈夫でないといけません。

10月PLG記録 10月24日グリーンパーク、晴、22度、微風、40秒MAX 5 / 10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F1	F2	総計
1	佐藤幸男	33	40	40	33	40	40	40				200	77/35		277
2	工藤陽久	36	40	40	40	40	40					200	73/50		273
3	三辺勇司	40	40	40	37	40	40					200	47/34		247
4	河田 健	29	40	40	38	40	40	40				200	43/43		243
5	原 国光	40	37	40	40	40	32	40				200	38/40		240
6	倉田泰造	29	27	30	35	38	40	40	36	40	40	198			198
7	斉藤竹彦	38	13	40	17	40	07	33	32	29	29	183			183

2010年11録会の結果(HLG / CLG)

11月HLG記録会報告

平尾

吉見公園も飛ばす環境が落ち着いてきて、当分の間は競技会がやれそうです。しかし、様々に気を使って長続きできるように致しましょう。この日は地面も草が刈られて、且つ、地表を平らに掘削した様子です。全体にこれまでよりは凸凹を減って歩きやすくなりました。今回の陣地は久しぶりに南側で、そばに鉄塔が無いので飛ばしやすい。参加者も多めで絶好の飛行機日和、且つ幸いにもこの日は暖かく、しかも年内の様々な競技も終わってやっとのんびりした気分である。ところが競技の方は出席者は20名を超す盛況で、久しぶりにこんなに集まって大丈夫かなと言う雰囲気でした。競技不参加のメンバーとして櫛引夫妻、今関、菅野、片岡の各氏、高校生の西田君氏等々見学というか遊びというか、ともかく素晴らしいことです。心配は大盛況の大宮田んぼの再現か？で嬉しいのと心配でもあります。またまた、今回も秋・吉敷氏からトラック一杯の柿、及び、櫛引夫妻からは多数の賞品を

頂きました、感謝。

最近の競技は10投終わらない内に300秒出す選手が増えて、10投は予備選の様相です。この日もフライオフ進出は9名で、第3ラウンドまでやってやっと優勝が決まりました。オソロシヤ・・・

出だしからの連続マックス組と後半の連続マックス組に別れたが、9名も残ったと言うことはヒコーキの性能向上とチョットしたサーマルで簡単にマックスが出る事が常態化したと言えようか。

決勝は90秒、120秒マックスをクリアして、3ラウンドまでもつれ込むと言う凄さ。最後は1投のみの勝負となり110cmスパン機で頑張った野中選手が優勝、このところ屋外機にも目覚めた石井満選手が2位、3位は地元の連続優勝を牽引していた稲葉選手、4位は大型機で最近上位の常連となり頑張る久保選手、5位は「投げる時はヘッドアップ」で脱瀬谷の吉岡選手、6位にやっとの事で斉藤浩選手とはね・・・、7位になんと野球投げの池田選手が来た、素晴らしい。8位はやっと翼端投げに馴れてきた相沢選手、今後が心配？、9位は最近フライオフでは力尽きる平尾であった。

さて、その他では吉田選手がウンが付かず(この方がキレイ)298秒が10位、最近頑張っているタモちゃんが11位、でも292秒ですから立派です。12位は最近闘争心が失せた井村選手。

あとの選手は全て力を入れて投げれば優勝戦線に残るはずで、最近ではヒコーキの差はほとんどないのではなかろうか。最後に、高校生の西田君がパチンコで特別参加してくれました。

11月HLG記録 11月28日吉見公園、晴、20度、0～2m、60秒MAX 5 / 10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	10	合計	F 1	F 2	総計
1	野中正治	60	60	55	45	60	52	60	60			300	90/	120/87	597
2	石井 満	60	48	46	60	60	60	60				300	90/	120/61	571
3	稲葉 元	32	60	60	41	60	60	60				300	90/	75/117	507
4	久保晃英	60	60	51	60	60	44	43	49	45	60	300	90	88/80	478
5	吉岡潤一郎	58	60	60	60	60	41	44	60			300	90	64/28	454
6	斉藤 浩	60	60	60	59	60	60					300	86/78		386
7	池田 昇	60	36	30	40	40	45	60	60	60	60	300	74/48		374
8	相沢泰夫	58	52	60	60	40	50	60	60	60		300	66/66		366
9	平尾寿康	39	52	49	56	60	60	60	60	60		300	38/51		351
10	吉田利徳	60	60	52	59	60	45	23	51	59	47	298			298
11	平岩 保	53	53	60	45	60	36	35	44	59	51	292			292
12	井村真三	50	46	59	46	40	33	60	60	34	53	282			282
12	三俣 豊	36	43	32	42	53	55	58	38	57	46	269			269
14	斉藤勝夫	38	40	32	33	60	57	38	29	25	25	233			233
15	吉敷 潔	34	36	55	34	52	27	37	34			214			214
16	吉野栄三郎	26	25	22	23	43	30	60	54	24	18	213			213
17	星野 聡	26	52	30	32	40	33	29	43	25	37	205			205
P	西田	31	06	32	29	40	40	39	27	36	04	186			186

11月PLG記録会報告

.....河田

静気流のもと45秒MAX.で、連続5maxが4人、7射5maxが3人、4max.が2人でした。90秒MAX.FOで工藤さんが辛抱強くサーマルを待って久しぶりに優勝しました。ヒラリンさんが小型の紙飛行機で飛び入り参加してFOに残りましたが風が出てきて、秒時が伸びませんでした。(河田)

今回は45秒マックスにもかかわらず全体に成績がよいようで、スゴイですね。ここまで記録が良いいと、あとは実力と言うよりは運の要素が大きく念力がものを言うのでしょうか。グリーンパークの気流はよいとは言えませんので、よほどの好条件だったのでしょう。ヒコーキが良く飛ぶと、勝ち負けはとも

かく気分がイイもので当然ながら健康増進になりますから精進してください。ガンバレ、ロートル！！

11月PLG記録 11月14日グリーンパーク、曇り、20度、風0～3m、45秒MAX 5 / 10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F1	F2	総計
1	工藤陽久	45	45	45	45	45						225	57/75		300
2	三辺雄司	45	45	45	45	45						225	57/52		282
3	吉本綾一	45	45	45	45	45						225	46/52		277
4	原 国光	44	42	45	45	45	45	45				225	38/51		276
5	河田 健	45	45	45	45	45						225	49/50		275
6	平林久之助	38	45	45	45	45	40	45				225	48/39		273
7	加藤紀一郎	45	41	45	45	42	45	45				225	42/40		267
8	倉田泰造	45	44	42	41	40	45	37	45	31	45	224			224
9	佐藤幸男	38	45	38	45	45	36	45	40	42	43	223			223

2010年朱鷺カップ報告

…………丸山、石井満、平尾

開催 2010年10月17日(日)開催場所 新潟市西笠巻田んぼ

競技会の上位入賞者の結果からご報告致します。HLG - A 1位 伊東哲男 2位 毛利修
3位 石井満 HLG - B 1位 伊東哲男 2位 石井満 3位 園田宏樹

以上の結果となりました。全選手の成績はランチャーズ掲示板をご覧ください。

今回は第1回開催を上回る23名がご参加となり、参加して頂いた選手の皆さまのおかげをもちまして第2回朱鷺杯を無事終える事が出来ました事、誠に有難うございました。大会当日は西の風、風速2～3メートル、晴れと天候に恵まれました。サーマルは時折ある程度で、皆さん風が読みづらいとおっしゃっておりました。

新潟開催のHLG競技会でこれほどまで多くのトップランチャーが集まるのは、未だかつてなかったはずで、投げの力強さ、上昇高度、滞空時間、どれをとってもケタ違い、第1回朱鷺杯HLG-Aで石井満さんと優勝を争った橋本雅和さんも今回は調子が今一つ。地元新潟勢は手も足も出ず、県外勢に圧倒されっぱなしという成績でした。HLG - Aのフライオフでは岡本さんが1番機の主翼大破、毛利さんのあわや機体回収での時間切れのピンチ等もありましたが、最後は伊藤哲男さんの手強い投げで優勝となりました。HLG - Bは こちらもダブルエントリーの伊東哲男さんが小さい機体を翼端投げで優勝でした。園田さんの素晴らしい熟練した投げも見ごたえのあるものでした。石井満さんの飛行機が大会本部席に激突するなどのハプニングもありました。大会終了後は、地元長井さん提供の地酒をかけてのじゃんけん大会競技会よりも盛り上がった様に思います。

また第3回新潟朱鷺杯も多数のご参加をお待ち申し上げております。ご参加頂いた選手の皆さま、大会お疲れ様でした。(以上新潟FFC-丸山泉)

10月17日に新潟で行われた朱鷺カップに参戦してきました。昨年に続いて2回目の開催で全国から強豪が大勢集まりました。北は気仙沼から南は大阪まで23名ものオールスター勢ぞろいでハンドランチ日本一決定戦の様相です。前日から会場入りされた方も多く、夕方暗くなるまで練習・調整をしています。私も最後まで機体のテストを繰り返して明日に備えます。年に数回の本気競技です。

ゴルフのメジャー大会では有りませんが「きしめん大会」「松茸大会」「大中大会」「朱鷺カップ」で4大メジャー大会と位置付けられます。競技当日は早朝から晴れて微風の飛行機日和。HLGAとBの両方にエントリーします。8時ぐらいから空気が動き出して西風3m/s、上下動も出て来ました。空気が荒れる前に本命のHLGAを済ませてからBを飛ばす作戦を取ります。

* HLG-A

8時半から競技開始。60秒マックスで10の5。開始早々投げてぎりぎりマックス。全体に浮かない空気です。静気流性能85秒の機体を飛ばしても1分ぎりぎりのタイムしか出ません。この時間にして早くも気流読みが必要な状況です。30m以上の高い所は安定していますが20m以下になると突然暴れる難しい空気でした。多分風上の土手と大きな建物の影響なのでしょう。私は気流読みが苦手なので回収して休まず直ぐ投げてを繰り返して運よく5連続マックスで1抜け予選通過。弱い下降気流までなら何とか1分クリア出来る性能が強みの作戦です。

風は穏やかなのに意外と浮かない難しい状況に苦労しながらもそこは実力十分のベテラン揃いですのでしっかり気流を読んでマックスを重ねて7名がパーフェクトで予選通過しました。予選通過メンバーの状況は伊東さんがスタイロ翼の大型を悠然と飛ばして圧倒します。毛利さんは新作のバルサ大型機を手なずけてタイムをまとめます。きしめん、松茸連覇の小6岡本陸君は相変わらずの高度で溜息が出ます。お父さんも順調にマックスを重ねています。宮代部屋の稲葉さんも落ち着いた状況判断で的確にサーマルに入れて6投で楽々予選通過。初参加の小野寺さんは10投目に5つ目を出してぎりぎり通過となりました。以上7名がフライオフに進みます。

地元新潟勢は競技会運営に力を注いでいたため成績は精彩を欠いていたようです。昨年準優勝の橋本さんは豪快な投げで驚かされますが今回は気流に嫌われて振るいません。空気が震えるほどの発射音が凄かったです。細海さん、長井さん、笠井さんともあと一步で撃沈。軽量機を持ち込んだ掛山さんは素晴らしい浮きの機体を途中でロストして残念。野中さんは後半苦労して4マックス止まり残念です。新潟の新人丸山さんは途中機体大破もありこれから。良い投げをするのでこの先の進化が楽しみです。HLGAは参加者23名で翼端投げが大半で野球投げは僅か2名でした。大型機の優位性は揺るがないでしょう。10分間で2投中の1投、120秒マックスによるフライオフ。私は開始早々投げて気流に揉まれながらひやひや物のぎりぎりマックス。同じタイミングで投げた数名は僅かに足りません。その後もう一回サーマルが来てこれに乗せた4名(伊東、毛利、岡本父、岡本陸君)と2回目のフライオフに進みます。10分間で2投の1投、180秒マックスのハードな設定です。私は回収をせず2機飛ばす作戦を取りますがいずれも気流に恵まれず撃沈。風上の建物の乱流帯に揉まれて暴れます。この時間になって風向きが変わったのに気が付かなかったのが敗因でしょう。乱流帯を避けて飛ばした伊東さんが76秒で優勝。第一フライオフでの回収がぎりぎり間に合った毛利さんが54秒で2位、3位は44秒で石井、4位が陸君、5位が岡本さんとなりました。

* HLG-B

は14名が参加。Aとダブルエントリーが多かったので10投消化出来ない方が多かったですね。

こちらは野球投げが主流で翼端投げは3名のみでした。優勝は円弧上反角の美しい機体を翼端投げした伊東さん。Aとダブル優勝です。2位は翼端投げで2マックスの石井、3位は野球投げの園田さんでした。全体でマックスは6個のみ。この日の空気がいかに難しかったのかを物語っています。

小型機には厳しい「浮かない空気」でした。Bサイズを翼端投げでの優勝は初めての事では無いでしょうか。このサイズでも変革が起きようとしています。

2回目の朱鷺カップでしたが今回も豪華な賞品が沢山用意されていました。各3位までは地元産新米5kg。長井さん提供の銘酒沢山を全員でじゃんけん大会。美味しいお酒で目の色が変わってみなさん競技以上に盛り上がっていました。転向に恵まれて大成功の朱鷺カップでした。来年もまた参加したいと思います。(以上やまめ工房・石井満)

第2回新潟朱鷺カップ(HLG-A)記録 新潟笠巻たんぼ(FO1、2回は120秒マックス)

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	伊東 哲男	46	60	60	60	41	60	60				300	28/120	55/76	496
2	毛利 修	6	44	60	35	62	60	60	60			300	35/120	54	474

3	石井	満	60	60	60	60	60						300	120	44	464
4	岡本	陸	60	60	60	58	60	43	60				300	120	40	460
5	岡本	淳	41	60	60	48	60	60	0	60			300	56/120	31	451
6	稲葉	元	60	60	55	60	60	60					300	78		378
7	小野寺	洋	56	54	60	60	48	60	52	52	60	60	300	75		375
8	野中	正治	54	49	60	60	60	60	40	16	8	56	296			296
8	笠井	修一	58	59	60	26	60	30	30	44	58	51	295			296
10	掛山	吉行	30	60	49	42	60	60	60	45	18	46	289			289
11	細海	勝	35	16	45	60	23	60	51	60	27	40	276			276
11	吉田	利徳	58	48	47	60	35	60	50	43	35	39	276			276
13	長井	道雄	46	6	60	31	42	26	60	60	34	46	272			272
14	丸山	泉	55	39	46	60	0	52	42	26	36	34	255			255
15	上松	徹哉	51	60	60	30	30	42	36	35			249			249
16	橋本	雅和	60	58	43	20	26	52	34				247			247
17	斎藤	勝夫	52	35	37	41	43	40	44	40	41	58	238			238
18	池田	昇	45	42	38	34	37	0	39	33	18	26	201			201
19	橋本	玄	31	24	30	23	13	46	60				191			191
20	平岩	保	34	34	25	15	38	18	7				150			150
21	園田	宏樹	60										60			60
22	細海	修	20													20
23	高山	実														

H L G - B記録(スパン36cm以下) 60秒マックス5/10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	伊東 哲男	53	37	60	29	44	33	41	46	47	29	250			250
2	石井 満	38	31	35	45	25	42	60	24	60	5	245			245
3	園田 宏樹	30	43	31	21	39	35	24	47	34	60	224			224
4	吉田 利徳	43	38	31	15	58	26	43	27	16	33	215			215
5	池田 昇	31	41	31	18	18	43	42	41	33		187			187
6	平岩 保	26	35	6	26	8	37	41	8	15		165			165
7	武田 信行	31	26	29	28	31	28	20	17	28	19	147			147
8	稲葉 元	36	60	32	8							136			136
9	郷家 満夫	28	22	18	21	11	25	17	23	28	17	126			126
10	長井 道雄	19	7									26			26
11	丸山 泉	12	12									24			24
12	笠井 修一	13										13			13
13	小野寺 洋	0										0			0
14	橋本 雅和														

2010年FF日本選手権競技会報告

.....平尾

10月29、30、31日、千葉県旭市万才田んぼにてFF日本選手権競技会が開催されました。29日(金)はそこそこの天候でしたが、30日は速度を上げた台風が丁度関東に到着するという最悪の天候でやむなく、朝5時から待機していた本部は早々にこの日のF1B競技は中止と決定。参加者の多

くは観光や地元の美味しい魚を食べに出かけました。宿に残った関係者は情報交換や飲み会に精を出し、翌日の天候回復待ちました。幸いにも速度を上げた台風は31日には東北に通り過ぎ、雨もほぼ止んでF1A、Cの競技は実施することが出来ました。快、快。

* F1A競技

この日の天候は3～8mの風とパラパラッと来る雨。F1Aグライダーは田んぼのめいっぱい北側に発航基地を設営。地面(田んぼ)はジクジク、水でピカリと光る田んぼもあって機体が水没しないことを祈ることせつ。曳航は道路と比較的走りやすい田んぼでやるしかなく、曳航技術の問題とは別の難しい状況でした。朝から北東の風で風上にある曳航の高さと同じ高台の影響で、ホバリング中の機体を頻繁に突風が襲います。こいつが難物で各選手とも苦労していました。

参加選手9名の思いはそれぞれで、風で「チャンス」と喜ぶ選手と、いつ競技を止めるかを模索する選手に別れて様子見です。こういう日になると俄然果敢に攻める湘南倶楽部のメンバーと、調整っていない機体のコントロールに疑心暗鬼の選手にわかれて成績には大差が出ます。

熊井選手はいつもの如くあまりサークリングせず、地上でのサーマル読み勝負を賭けます。同じく、櫛引選手も上げての1発離脱です。和田、山本、村上、生駒、田久保、平岩の各選手は果敢にサークリングに挑戦しますが、突風にやられて思うようにはいきません。且つ、風があるので回収も難しく体力勝負になりました。さて、各選手の状況ですが和田、山本選手は機体不調で思いようにサークリングが出来ません。生駒、平岩選手は転倒やデサミスで没。結局は熊井選手が作戦勝ちで優勝、村上選手がアクシデントがありながら2位、中沢選手が3位に入って、今年も湘南が頑張りました。

2010年日本選手権競技F1A記録 10月31日、曇り、20度、風3～8m、180秒MAX

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	合計	備考
1	熊井恒雄	180	180	96	180	81	180	180	1077	
2	村上喜信	89	116	180	180	0	156	180	901	
3	中沢正雄	116	136	124	158	73	180	96	883	
4	生駒大造	58	180	180	28	92	180	68	786	
5	田久保潤一	104	180	26	150	48	95	174	777	
6	和田光信	152	22	180	122	60	110	78	724	
7	山本 修	0	68	103	168	180	180	0	699	
8	櫛引敬司	85	141	39	175	83	60	77	660	
9	平岩 保	61	66	75	0	0	0	0	202	
10	栗田和義	0	117	47	0	0	0	0	164	
11	平尾寿康	32	102	0	0	0	0	0	134	

* F1C競技

離れていたのて詳細がわかりませんが、第1ラウンドは強風で中止したようです。結局競技は第2ラウンドから始めて、マックスの出方を見ながら6ラウンドはマックスを240秒にして競技を成立させたのは、的確な判断だったと思います。各選手とも固定翼のギヤモデルをメインにして、幸いフライオフもなかったのて折りたたみ翼は使わなかった様です。唯一バルサモデルの小板橋選手は、多分この風では接地してからの損傷を嫌って飛ばさなかったのでしょうか。世界的にF1Cの選手が減っている現在、極西の国・日本での競技に6名の参加選手がいることは誇ってイイと思います。

2010年日本選手権競技F1C記録 10月31日、曇り、20度、風3～8m、180秒MAX

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	合計	備考
1	金川 茂	0	180	180	180	180	240	180	1140	

2	関沢一雅	0	180	180	180	180	238	180	1138	
3	山崎 與	0	180	180	180	167	154	180	1041	
4	江連明夫	0	180	144	180	169	28	0	701	
5	増田哲司	0	95	76	180	0	0	0	351	
6	小板橋勇	0	0	0	0	0	0	0	0	

22年FF国際級(ジュニア)競技大中大会簡単報告

……高田富造、平尾

今回の大中大会も好天に恵まれ参加者も多く、関東で開くのととは違った人々が集まるのは良いことと盛会でした。日本選手権とはまた違った雰囲気、参加メンバーは年1回の遠征組も増えて中々に素晴らしい。中型クラスは一時より参加者が減ったように思うのは、少し寂しい。それに比べてライトプレーンやHLGは熱気ムンムンで、まさに全国大会です。今回の報告は全体を見てはいないので、記録から見た雑感報告になります。お許しを……。

* 中型機

中型機は参加者が少な目に決まってきた、今後はどうすれば増えるのか工夫が必要に感じます。

ゴムのF1Gには関東からは5名が参加、まだ馴れていない中田選手が残らなかったものの例年と違った強豪選手がフライオフに進出し結果、このクラス本気でやっている坂巻選手が取りました。

F1Hグライダーはいつもの3人で代わりばえなしですが、地元の中川選手順調に伸びて、あと問題は飛行機の出来のみ。吉岡翁は久しぶりのオールマックスで機嫌良く関東に帰りました。F1Jエンジンは久しぶりに復活の金川選手が、E、2位、何で増田選手が優勝？ 地元の花ですかね。

* HLG

HLG - Aは16名とまさに全国大会です。これだけ数が揃うと参加するだけでも楽しい。前座の口の戦いの成果がどうか不明ですが、最近メキメキと音がする毛利選手が優勝は順当でしょう。関東からは、HLGとなると何処にでも行く石井満選手が屋外機にも馴れてきて2位。そうなんです、屋外機は馴れてくると自然にサーマルで投げるようになるのです。3位は、とにかく機体がイイ新潟の長井選手です、私の大好きな軽いフラップ翼ですが実に浮くのです。今年は4位にやっと名古屋の伊東選手、ハイテクのヒコーキが良くなったのに何故でしょう。5位はやっと今回倅に勝った岡本親ですね。

天才岡本ジュニアは受験を控えて減速中かな。6位に最近大型機(スパン110~150cm)を振り回す関東の野中選手でした。ここまでがフライオフでした。HLG - Bの方は伊東選手が優勝してうっぴんを晴らした。平尾が出ていれは違ったのだが……嘘。

* ライトプレーン

今年はおだてられて関東か石井英夫選手が参加した。50秒マックス6回なので、当然ながら13人/18人がフライオフに進出。全員本気で戦った7分フライオフは瀬谷の平井選手が優勝、飛ばしたのは石井モデルで最後までよく見えたせいですよ。いずれも軽量級の機体の戦いですが、7分ともなると上空でも見えない事があるし、稜線に入るとさらに見にくいので透明な機体は損でしょうね。で石井選手どうなったか？ 結果は不満なようですが、お年からいってこんなもんでしょ。

参加した機体はまさにバラバラで、カーボンのハイテク機から木村秀政氏の純血種までがフライオフに残った。なんと時代差は70年かな。こんな事に心血を注ぐ必要がありますかね。(以上平尾)

LPはミニ国際の反省で今年最後の作品を仕上げ打ち上げにしました。今年はロングにこだわって、かつ軽量化を求めたら、フラッターを起こして中田計時に見られてしまったのです。ロングの効果は分かりましたが、強度のある軽量化で考え込みました。一から重量を洗いなおして組み立てを進め、段階ごとに計量しました。パイロンに極薄グラスを貼ると3Kカーボクロスとは0.2g違うがどっちにしようとか。リップの下をえぐったら0.9g違うとか。どうにか15g。島田さんたちの芸には行きつけません。(高田富造)

2010年11月21日大中田んぼ F1G

順位	氏名	1	2	3	4	5	F01	F02	合計
1	坂巻敏雄	120	120	120	120	120	156		756
2	河合 良	120	120	120	120	120	127		727
3	吉田 潤	120	120	120	120	120	105		705
4	小我野光博	120	120	120	120	120	74		674
5	中田 光恭	120	120	120	109	120			589
6	勝山 彊	120	113	120	82	114			549
7	枝 延	120	120	120	120	40			520
8	大塚 恵司	63	103	120	120	64			470
9	松岡 恒夫	58	95	46	49	96			344

F1H

	氏名	1	2	3	4	5	F01	F02	合計
	吉岡 靖夫	120	12	120	120	120			600
	中川 浩伸	67	5	44	86	120			368
	平尾 寿康	120	12	0	45	0			285

F1J

	氏名	1	2	3	4	5	F01	F02	合計
1	増田 哲司	120	120	12	120	12	233		833
2	金川 茂	120	120	12	120	12	161		761
3	岩村 慧一			9	75	5			230
4	吉川 強								0

HLG - A

順位	氏名	1	2	3	4	5	F01	F02	F03	
1	毛利 修	60	60	60	60	60	120	180	58	658
2	石井 満	60	60	60	60	60	120	180	53	653
3	長井 道雄	60	60	60	60	60	120	180	48	648
4	伊東 哲男	60	60	60	60	60	120	180	41	641
5	岡本 淳	60	60	60	60	60	120	152		572
6	野中 正治	60	60	60	60	60	120	47		467
7	掛山 吉行	60	60	60	60	58				298
8	岡本 陸	60	60	60	60	50				290
9	吉田 利徳	54	55	60	60	60				289
10	山本 和文	46	56	54	60	60				276
11	池田 昇	46	37	60	60	60				263
12	上松 徹哉	13	39	36	60	60				208
13	斉藤 勝夫	40	30	27	42	60				199
14	平岩 保	22	17	52	32	28				151
15	岡本 光幸	1	0	0	0	0				1
16	園田 宏樹	0	0	0	0	0	0			0

HLG - B

順位	ラウンド	1	2	3	4	5	F01	F02	合計
1	伊東 哲男	37	48	60	58	53			256
2	石井 満	11	45	60	39	55			210

3	吉田 利徳	39	35	37	35	32			178
4	岡本 淳	39	23	41	42	32			177
5	山本 和文	5	44	51	0	0			100
6	上松 徹哉	0	0	0	17				17
7	園田 宏樹	0	0	0	0	0			0

ライトプレーン

	ラウンド	1	2	3	4	5	F01	F02	合計
1	平井 久俊	60	60	60	60	60	180	420	900
2	梶原 正規	60	60	60	60	60	180	315	795
3	今村 利勝	60	60	60	60	60	180	103	583
4	嶋田 信	60	60	60	60	60	180	95	575
5	高田 富造	60	60	60	60	60	180	68	548
6	藤田 清明	60	60	60	60	60	156		456
7	荒谷 靖久	60	60	60	60	60	155		455
8	菅原 隆郎	60	60	60	60	60	134		434
9	吉田 勝海	60	60	60	60	60	125		425
10	石井 英夫	60	60	60	60	60	124		424
11	三井 隼	60	60	60	60	60	113		413
12	松下 行治	60	60	60	60	60	81		381
13	寺川 進	60	60	60	60	60	77		377
14	岡崎 一良	57	60	60	60	60			297
15	福澤 宏	60	60	52	60	60			292
16	川阪 末継	60	60	48	55	60			283
17	野々村義則	44	52	60	53	43			252
18	吉田 順一	33	49	33	34	35			184
19	岩村 慧一			60	60	60			180
20	石田 克彦	0	0	0	0	0			0

お知らせ

平成23年度きしめん大会案内（参考）

- 開催日時 平成23年2月27日（第4日曜日）8時30分開会式、8時45分競技開始
- 開催場所 三重県鈴鹿市池田町タンボ
- 種 目 中型混合級 E・F1J級、G・F1H級、R・F1G級の機体。2分MAX5ラウンド
HLG級・1分MAX10ラウンドの上位5ラウンド
小型混合級・スパン30インチ以下・ゴム重量10グラム以下のゴム動力機なら、どんな機体でも参加できます。1分MAX3ラウンド。ただし、3ラウンド中に1MAXを獲得した競技者は3ラウンドの試技をすべて行うことなくフライオフに進むことができる。
- 参加費 2000円、ただし中学生以下は無料とします。複数種目のエントリーの場合、追加種目ごとに1000円お支払いください。
- その他 当日、現地にて競技参加を受付けます。当日の天候等によりラウンド数やMAXを変更する場合があります。原則として選手同士の相互計時とします。参加者はストップウォッチを持参してください。また双眼鏡を持ってみえる方はご用意ねがいます。事故が起きた場合は競技者本人の責任において対応してください。

主催 CFFC
実行委員 中型混合級 - 吉川強、佐藤宏彦、吉田潤、HLG級 - 掛山吉行、
小型混合級 - 竹内栄重、鈴木勝

FF文化サロン

ライトプレーンの変容 (石井英夫氏最新作の紹介)

……平尾

今回は石井英夫氏から略奪した最新の5グラムライトプレーンをご紹介します。それと共に変容を続けるLPの生き様とその理屈を独断で綴ります。

1. 機体

5グラムライトプレーンは現在すでに飛びすぎで、狭いところではフェアな競技が成立しなくなりつつあります。今回の大中ジュニア大会のLP競技においても、正規の5ラウンド競技は実際は前座で半数以上が残ったフライオフから選手が本気でやる競技なのです。大中は広いとは言えLPが3分も飛ぶと裸眼では見えにくく、7分では双眼鏡で見ても稜線に入った機体は、目が良くないと視界没になってしまいます。

30年ほど前の昭和記念公園での大会にはB級ライトプレーンの競技もありましたが、現在では飛びすぎるので誰もやりません。A級ライトプレーンでも飛び過ぎるので、いろいろといじめぬいていますがそれでも規定競技内では納まらず、さらなるシバリを検討している有様です。

現在の5グラムLP規定では、胴長50cm以下、空転ペラ使用の制限のみですが、設計思想が変わって昔の木村秀政氏の面影はなくなりました。ちなみに氏の設計した有名な「毎日A-2型(ひばり号)」の翼弦は14cmでアスペクトレシオは4.6です。当時の機体は結構重く約30g以上はあったでしょうが、翼面積が大きいので搭載ゴムを10gとしても翼面加重は6.2g/cm²です。現在のLPは軽量化が進んでますが翼面積も減ったので、翼面加重はさほど変化せず6g~7g/cm²です。

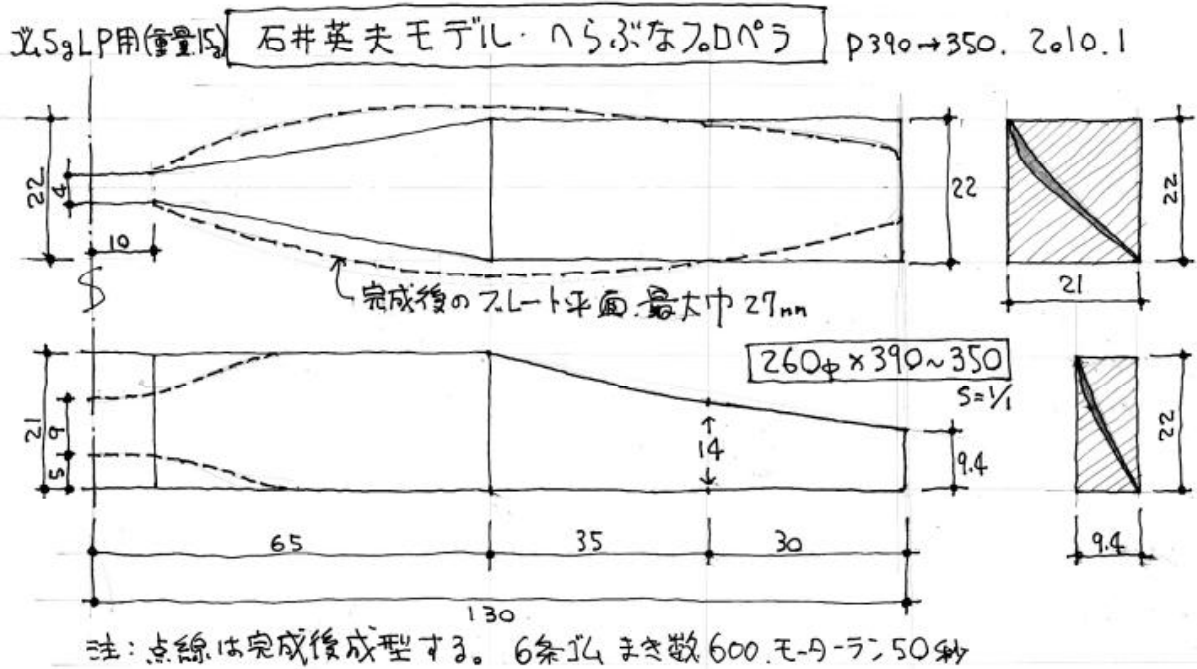
最近のLPは翼弦の減少にともない主翼面積も減り、結果として翼面加重が増えます。しかし、翼表面積の減少で上昇抵抗が減るので動力飛行で高度を稼ぎます。その上翼面加重が増えたにもかかわらず滑空性能は良くなっています。これは機体と空転プロペラの抵抗をトコトン減らしているからです。又、ハイアスペクトレシオ化はLPでも効果があり、空力性能は低下していません。又、翼面積の減少がそのまま軽量化となり、且つ、強度の点でも有利に働いて、初心者にも作りやすいと言う様々な利点を生んでいます。最近では翼弦6cmの機体すら出現し、全体的にハイアスペクトレシオの大型ゴム動力機に似てきました。今後LPはどの様に変化するかですが、多分さらに胴体が長くなって水平垂直尾翼面積が減少し、ハイアスペクトレシオ化が進むでしょう。しかし、構造上からF1BのようなAR18と言ったスゴイ事は無理ですが、現在でもARは7.4と昔の倍近くになっています。F1Bに比べてスパンが1/3しかない機体を高AR化する事によって、寸法効果も考慮しての滞空性能がどこまで向上するか興味シンシンです。今後ともさらに軽量化が進むでしょうが、美しさは無論のこと、翼も透明なフィルムを使い丈夫さや空力も捨てて軽量化に走る事には反対です。且つ、軽量化小型化がさらに進んでの見えにくい機体は、競技で遠くに飛ぶと不利です。特に高度が落ちて稜線に入ると極端に見えにくくなります。各選手はこの事に気がついているでしょうか。ヒコーキがよく見えることは当然ながらの競技作戦として考えるべきです。

今回の大中大会のフライオフでこの機体の上昇を見ましたが、軽い螺旋を画きながらほぼ垂直に上昇して推定高度80mと言ったところでしょうか(ん?もっと上がってる?)。(図面別添)

2. プロペラ

この項は本当は石井英夫氏に書いて欲しいところですが、私の駄文で我慢してください。この機体に搭載されているプロペラ直径は260mmと標準的ですが、ピッチレシオはこれまでの常識をくつが

えす1.5のものです。氏はこのところハイピッチペラを研究中ですが、氏が指摘する問題点としてはハイピッチペラは軽量化と関連が深く、重く且つ抵抗の多い機体にむやみにハイピッチペラを搭載しても効果がない様です。氏はピッチレシオ1.6のものもテストしたようですが、機体との整合性がシビアで重量に敏感な様です。ですから、これまでの重く、且つ、抵抗の多い機体には低ピッチのプロペラをガンガン回して飛ばすのが正しいのです。一般的な機体(機体重量20~25g程度)には以前発表したピッチレシオ1.34程度のプロペラが適合します。この点は誤解のないようにしてください。



雑談天国

美しい飛行機 その2 複葉機



スパッドS.

……平尾

さて、美しい飛行機は沢山ありますが、それら全てが面白い話になると言うところはなりません。今回は複葉機に光を当てて見ました。

飛行機は鳥を真似たと言いますが、世界初めて飛んだ飛行機は複葉機のライトフライヤーで全く鳥に似ていません。自然界の鳥は単葉で昆虫界のトンボも複葉とは言えません。ルネッサンス時代の天才レオナルド・ダビンチも鳥の真似から脱して複葉にたどり着かない限り飛ぶことは出来なかったでしょう。私は彼は天才的な芸術家であり観察考察の天才ですが、発明家ではなかったと



フォッカーD.



ソップース・キャメル



ニューポール17

てきました。当時は使い方も模索中で、その為飛行機製作に時間をかけるひまはなく、優れた飛行機があれば各国その真似をして作りました。また搭載していた兵器もチャッチク何回撃墜されても飛び続けるエースもいたので、ヒコーキ乗りには第2次大戦の様な悲壮感はありませんでした。第1次大戦当時の戦闘機の大きさは翼巾7~8m、胴長5~6m、速度150~180km/h、重量500~700kgで大部分が木製羽貼りでした。これらのヒコーキは軽いので滑空性能も良く墜落時の衝撃も少なく、陸地に降りれば助かったのです。当時の戦闘機乗りが最も恐れたのはヒコーキ火災と寒い海への着水

認識しています。彼の有名なヘリコプターもどんなに工夫してもあのアイデアでは飛ぶのは不可能ですし、複葉は実際に作らない限り思い付かないものです。複葉の発明がなかったら人間は飛ぶことが出来なかったでしょう。当時の材料や構造力学では飛行機の重さを支えるに足る、薄くて長い片持ち翼(例・厚さ10センチ、長さ5m、その比1/50の跳出し構造の翼)を軽く作ることが出来なかったからです。世界で最初に複葉機で飛んだのはリエンタールですが、鳥の形をしている彼のグライダーでは動力搭載を考えていませんでした。世界最初の飛行機の重量を支えるに足る軽くて丈夫な構造的複葉を考えたのはアメリカのオクターブ・シャヌートです。彼は上下2枚の翼を組み合わせ1つの構造体にして頑丈な翼を完成したのです。元々複葉機の発想は軽い構造で翼面積を大きく取れ、その結果翼面加重が減って離着陸速度が遅くなり安全性が向上するところにあった。もう一つの利点は翼巾が短いので運動性がよいことであった。但し、複葉機の場合は単葉機に比べて揚力は75%程度しか得られないし、抗力は50%増しになると言う欠点がある。

もう一つの大発明がライト兄弟の撓み翼(補助翼)です。飛行機が横転した時に昇降舵や方向舵では即修正は出来ません。この撓み翼と彼の天才的な操縦能力によって、極端に胴体の短い不安定な複葉のライトフライヤーで初めて飛ぶ事が出来たのです。模型飛行機はその点全くの対極にあり、補助翼なしでいかに安定的に飛ばすかに専念しているのですが。

当時のヒコーキが珍しさのみではなく本当に注目され始めるのは第1次大戦からです。そこで、いとも簡単に作れる複葉機が沢山出



ディハピランド・タイガーマス



ピッツスペシャル

・ライカミング水平対向6気筒260馬力、最大速度は282km/hです。この飛行機は大部分が木製で、作りたい人はお金を貯めてはパーツを買って気長に造る人々がいます。そして最後にエンジンを買って飛ぶのです。まだ日本で作った人はいませんが、FF屋で挑戦しませんか。

で、当時はドーバー海峡での凍死者が陸上より沢山いたのです。金属ヒコーキはすぐ水没ですが木(主桁、リブはバルサ)のヒコーキだと浮きますしね。しかし、しだいに飛行機の発達と共に運動性の良い複葉機とより高性能な単葉機が比較され、材料の進歩とともに、しだいに単葉機に圧倒され始めます。結局複葉機の時代は第1次大戦から第2次大戦が始まるまでのおおよそ20年で終わりました。しかし複葉機なくして、その後の飛行機の発展はあり得ませんでした。

参考までに写真を載せましたが、見ただけではこれらの飛行機がどのような特徴と差があるのはわからないでしょう。実際もその差は微々たるもので、使い勝手や好みで評価が別れた程度でしょう。複葉機が作りやすい事は、最大の利点であり、結構な数の複葉機が現在飛んでいます。民間では現在でもターガーマスや曲技機で有

名なピッツ・スペシャル(手作りキットもある)等、数々の複葉機が飛んでいます。ピッツ・スペシャルはホームビルド機として今でもフロリダ州のSteen Aero Labが部品を供給しています。緒元は全幅6.1m 全長5.71m 全高2.02m 全重521kg エンジン

はアブコ

銃刀法と軽犯罪法について

……平尾

銃刀法とは銃砲刀剣類所持等取締法の略で2008年7月に改正されてから、厳しくなった印象が強い。しかし、大宮田んぼでの状況を見聞きするところでは、警官がまず銃刀法で所有を確認すると称しながら、これに該当しない場合は、即、軽犯罪法に切り替えて検査をする様子が伺える。この場合、途中で切り替えるとなれば、本当はどの法による検査であるか事前に説明するのが筋であろう。

しかし、ほとんどの場合はその説明はなく、ごまかしにちかい法違反ギリギリの尋問方法である。

インターネットで調べると、ほとんどの場合、事前の説明がなく銃刀法から当然のように軽犯罪法に切り替えて取り調べを進めて、訳がわからないうちに連行されて調書を取られるらしい。

警官が検査を軽犯罪法に切り替える根拠は、軽犯罪法第1条第2号の「正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他の生命を害し、又は人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具を隠して携帯していた者」についてである。この法は読み方によってどんな道具も引っかかるのだから始末が悪い。この場合は「銃刀法違反はなかったですね」と念を押すこと。全国で軽犯罪法のみで逮捕された例はない。

良民である限り警察に協力するのは当然ではあるが、この軽犯罪法と言う法は数々の問題が指摘

されていて、ハイハイと協力していると不愉快な目に合う場合が多いようだ。軽犯罪法の検査はあくまでも任意であり拒否していい。しかし、銃刀法と絡んで継続的にやられると拒否できない雰囲気醸し出される点が問題である。そこでどの尋問からが軽犯罪法の適用に変わったのか確認して、軽犯罪法の尋問は任意であるので拒否してかまわないし、当然ながら同道する必要もない。

我々の注意点として、銃刀法では車等で、模型飛行機ともに修理のためのカッターナイフや肥後守を携帯するのはOKだが、徒歩で、且つ、町中で刃物を携帯するのは軽犯罪法違反となる。当然ながら、キーホルダーに付けている刃渡り3.5cm、刃巾6cm、刃厚1mmしかないアーミーナイフ(十徳ナイフ)でも、ハッキリした目的もなく町中で持ち歩くべきではない。自動車のキーに付けているアーミーナイフはカップ麺を開ける、果物を切る等々の明確な目的があれば許される。

ところで銃刀法のどの部分が我々に問題なのか。

* 第二条の2 この法律において「刀剣類」とは、刃渡り十五センチメートル以上の刀(厚さ2.5mm以上)、やり及びなぎなた、刃渡り五・五センチメートル以上の剣、あいくち並びに四十五度以上に自動的に開刃する装置を有する飛出しナイフ(刃渡り五・五センチメートル以下の飛出しナイフで、開刃した刃体をさやと直線に固定させる装置を有せず、刃先が直線であつてみねの先端部が丸みを帯び、かつ、みねの上における切先から直線で一センチメートルの点と切先とを結ぶ線が刃先の線に対して六十度以上の角度で交わるものを除く。)をいう。

* 第三条 何人も、次の各号のいずれかに該当する場合を除いては、銃砲又は刀剣類を所持してはならない。一 法令に基づき職務のため所持する場合」等々とあるが原則的にはいかなる場合でも所持は許されない。

* 第22条ただし書で、刃体の長さが8センチメートル以下に刃物の携帯が認められるものとして、施行令第9条に

1. 刃体の先端部が著しく鋭く、かつ、刃が鋭利なもの以外のはさみ
2. 折りたたみ式のナイフであつて、刃体の幅が1.5センチメートルを、刃体の厚みが0.25センチメートルをそれぞれ超えず、かつ、開刃した刃体をさやに固定させる装置を有しないもの
3. 法第22条の内閣府令で定めるところにより計った刃体の長さが8センチメートル以下のくだものナイフであつて、刃体の厚みが0.15センチメートルをこえず、かつ、刃体の先端部が丸みを帯びているもの
4. 法第22条の内閣府令で定めるところにより計った刃体の長さが7センチメートル以下の切出しであつて、刃体の幅が2センチメートルを、刃体の厚みが0.2センチメートルをそれぞれ超えないもの

上記の法に抵触する刃物は破棄すること。当然持ち歩いてはならない。ヒコーキ屋の場合は模型飛行機を飛ばす(修理も含まれる)のに必要な道具、ナイフ類、はさみ、鎌、錐、金槌等々軽犯罪法に引っかける道具を沢山持っている。しかし、勘違いしてはいけないのは模型飛行機を飛ばすのに必要な道具は、使用目的がハッキリしているので軽犯罪法にはかからない(千葉西警察に電話で確認)。様々な道具を持つのが不安であると言う人には、さらに酷な話ではあるが実は何も持っていない、ヒコーキ屋は「風体が怪しい」「不審な場所で不審な行為をしている」のであるから警官の独断で軽犯罪法に引っかけて「ちょっと署まで来て」と言われる恐れがある。

但し、これはあくまでも任意であるので「今はヒコーキ飛ばしが阻害される」と言う理由で拒否できる。また、警官が自動車の中を見せるとか、道具箱を開けるといふ場合、捜査令状が必要なので応じる必要はない。又、「警察まで来てください」と言われた場合も拒否してかまわない。拒否した場合に警官が「逮捕するぞ」(これは法に弱い警官の用語の間違いで「拘束するぞ」の意味らしい)等という場合、それは全くの脅しである。逮捕するには逮捕状が必要であり、逮捕には個人の氏名住所等が判明してなければならない。この様な状況で捜査を強行する場合、その警官が偽者であるか、又は警官が法律違反の可能性があるので、警察手帳を見せてもらい確認すること。そして氏名を確認し

て110番に電話して所属等を確認するのが望ましい。警察手帳を確認させない場合は、全てを拒否して全く問題がない。

以下軽犯罪法には以下のような見解が一般的である。

* 軽犯罪法の厳格な運用は酷であり、また別件逮捕の手段として濫用されるのを防ぐために以下の規定がある。法4条に「この法律の適用にあつては、国民の権利を不当に侵害しないように留意し、その本来の目的を逸脱して他の目的のためにこれを濫用するようなことがあつてはならない」(ウィッキペディア)

* 指紋採取と写真撮影 [編集]

刑事訴訟法218条1項は「...司法警察職員は...裁判官の発する令状により、差押、搜索又は検証をすることができる。この場合において身体の検査は、身体検査令状によらなければならない」と定め、同条2項は「身体の拘束を受けている被疑者の指紋...を採取し...又は写真を撮影するには...前項の令状によることを要しない」と定める。従って、逮捕されない限り、拒否している相手方の指紋採取や写真撮影をするには裁判官の発する身体検査令状が必要である。また、任意提出を拒否している相手方の所持物を差し押える場合にも、裁判官の発する令状が必要となる。そこで軽犯罪違反で検挙された場合でも、逮捕された場合を除き指紋採取・写真撮影は拒否できる。(ウィッキペディア) 検挙と逮捕は異なる。

以下は軽犯罪法の抜粋である。

軽犯罪法 (昭和二十三年五月一日法律第三十九号)

第一条 左の各号の一に該当する者は、これを拘留又は科料に処する。

二 正当な理由がなくて刃物、鉄棒その他人の生命を害し、又は人の身体に重大な害を加えるのに使用されるような器具を隠して携帯していた者

九 相当の注意をしないで、建物、森林その他燃えるような物の附近で火をたき、又はガソリンその他引火し易い物の附近で火気を用いた者

十一 相当の注意をしないで、他人の身体又は物件に害を及ぼす虞のある場所に物を投げ、注ぎ、又は発射した者

二十二 こじきをし、又はこじきをさせた者

三十二 入ることを禁じた場所又は他人の田畑に正当な理由がなくて入つた者

第二条 前条の罪を犯した者に対しては、情状に因り、その刑を免除し、又は拘留及び科料を併科することができる。

第三条 第一条の罪を教唆し、又は幫助した者は、正犯に準ずる。

第四条 この法律の適用にあつては、国民の権利を不当に侵害しないように留意し、その本来の目的を逸脱して他の目的のためにこれを濫用するようなことがあつてはならない。

* 車を運転している時は免許を提示しなければならないが、田んぼで自動車を運転していないのに「運転免許を見せてください」と言われた場合には見せる必要はない。プライバシーの保護のため提示しなくてかまわないし、それを警官は強制できない。軽犯罪法による強引な逮捕で、警察が裁判で負けたケースも多々ある。

* 職務質問は、任意の活動であるとされている(警職法2条)。ここでいう「任意」の意味は、「強制ではない」という程度である。よって、質問対象者が職務質問を負担に感じていても一概に違法な職務質問とはいえないし、対象者を引き止めるために腕をつかむなど、有形力を行使することも、状況次第では適法とされ得る。これらの行為が適法であるかどうかは、比例原則に従って判断される(警職法1条2項)。ただし、強制手段にあたる場合には、直ちに違法とされる(強制処分法定主義)。

職務質問の要件が備わっている場合には、具体的状況に応じて、『質問を継続する』という目的の達成手段としての行為も適法とされ得る。たとえば、最高裁判所で問題となったものとしては、質問に応じるよう説得する行為、質問の対象者が閉めようとしたドアを押し開け、足を挟んでドアが閉まらな

いようにする行為、質問対象者が運転する自動車のエンジンを切ってエンジンキーを抜き取る行為、質問途中で逃走を図った対象者を追跡して、その腕をつかんで停止させた行為などがある。(ウィキペディア) 注:前記の行為は違法性があるとの認定。

参考に (kunadonokamiaiの投稿 (2010年12月6日)より)

供述次第で白にも黒にも化けるのが、この軽犯罪法の大変厄介な側面です。その点は警察も熟慮していて、「正当な理由がないこと」「隠し持っていたこと」を前提に処理を進めます。同時に、無意味に刃物を携帯することの危険性を説きます。これは理解できます。それに関しては対応策を後述致します。仕事や趣味で使用する、していたことを明確にし、所持携帯については隠匿しない事が、この法律を回避する重要な要素です。

とはいえ、このような尋問で自分の不利益を洗いざらい話す必要はありません。黙秘権ですね。なので、「ナイフや刃物を持っていますか？」と聞かれても首を横に振るだけで構いません。ポケットに入れているのであれば、そのままOK。身体検査は被疑者ならともかく、一般市民を手当たり次第にはできません(女性ならセクハラですw)。「疑うのが仕事」などと豪語する警察官もいますが…。

車であれば、「車内を見させて下さい」と言われます。これは素直に従います。で、注意点。実は車に常備しておくというのが罠ですね。グローブボックスという有名な前例があります。工具箱や工具袋など、携帯所持に相応しい入れ物に入れてあれば、隠し持っていない事になります。キャンプの道具なども、それ相応の箱に入れてあれば、多分回避できます。グローブボックスやコンソールはそうした入れ物ではありませんから、むき出しのまま携帯という解釈になってしまいます。車に常備しておきたいという方も多いかと思われそうですが、これはかなり注意が必要かと考えます。どうしても車に常備するのであれば、車載ツールボックスが一番無難です。これを一々開けて確認する警察官はいませんし、仮にナイフが入っていても「車のメンテナンスに使うから」といえばOK。ただし、普通は入っていない工具ですから、それ相応の用途を説明する必要はあるかも知れません。私なら、「ユーザー車検の依頼を受けることがあり、車検票を剥がす際に使用したりする」とか言います。もちろん本来の用途なんて、それだけではありませんが、明文化しなければ警察は納得しません。いずれにしても、車内は色々面倒ではあります。)

編集雑記

……平尾

* 長年会報印刷に使ってきた卒のプリンターが、又々壊れたので修理に出した。しかし残念ながら、この機種はついに部品在庫の保管期限が過ぎて修理不能となった。こいつ、調べて見ると2002年製キャノンの550iと言う機種で、これまで約10万枚を印刷してきたので寿命である。代替器として2年ほど前に安かったものでランチャーズで買った新しい多機能機種は、困ったことに100円インクが使えない。この機種の場合は200枚刷るだけで白黒インクが1500円、3色カラーインクが2500円もします。これではまるで詐欺です。そこで昔の機種を売っていないか、バイク購入で培った知識を生かしてオークションを調べました。

根気よくやっていると同じ550iが何台かありましたが、オークションでは他の機種は誰も応札していないのに550iはものすごい人気機種なのです。特に「中古美品完動」等と注書きがあると30人もの応札があって結構な高値になるのです。あまり高くても意味がないので、数は少ない100円インクが使える他機種も狙うことにしました。こちらは安いのですが大部分550iより古い機種なので、いつまで動くかが心配になります。結局、送料込み総額約1万円超で、550iを2台とその他1台を落札しました。1台の550iは、オークション終了間際の2分前まで競り合い僅差で落札しました。イヤイヤビックリです。ようやく諸手続も完了し器械が届いてテストの結果、順調に動いたのでホッとしました。これで後5年くらいは100円インクを使いフルカラー印刷の会報が出せると考えています。

2010年12月 by. H. Hirao.

5グラムJG・ライト7.6L・最新石井英丈モデル

重量 主翼 4.5g
 胴体 4.7g
 尾翼 1.3g
 ノーズ 4.3g
 計 14.8g

主翼面積 2.95 dm²
 翼面荷重 6.7g/dm²

